

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	78		学校名	茨城県立鬼怒商業高等学校				課程	全日制		学校長名	荒井 智則				
教頭名	山中 栄樹								事務(室)長名	小山 太						
教職員数	教諭	29	養護教諭	1	常勤講師	10	非常勤講師	1	実習教諭 実習講師 実習助手	3	事務職員	3	技術職員等	5	計	55
生徒数	小学科			1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	商業に関する学科			60	100	/	/	/	/	/	/	60	100	4		
	商業科			/	/	56	60	35	50	/	/	91	110	6		
情報ビジネス科			/	/	21	19	9	31	/	/	30	50	2			

2 目指す学校像

不易を押さえつつ時代の趨勢を見極めながら商業の知識等をもとに未来のあり方を深く考えることができる心身ともに健やかな人材を育成する。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の動向に関心を持ち、自らの役割を判断して行動できる人材の育成 ○自ら考え学ぶことをとおして、自身の強みを社会に生かそうとする人材の育成 ○地域社会のニーズや期待に応え、信頼され必要とされる人材の育成
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの長所を伸ばす。 ○商業に関する専門知識の習得。 ○バランスのとれた知・徳・体の育成 ○進路希望の実現
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○世の中の動きやビジネスに興味・関心を持ち、商業に関する学習に積極的に取り組む生徒 ○目標を持って意欲的に活動し自分の可能性を伸ばそうとする生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学習状況を各教科ごとに観点別に評価し、その実現状況を分析し評価することができている。 ○グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた事により、積極的に学ぶ姿勢が見られる。また、生徒個々がタブレット等を活用し、互いに学習評価をすることができている。 ○ICT機器を活用し基礎基本（振り返り）を重視した家庭学習をとおして「わかる」「できる」と所感する生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究の効率化やICTの有効活用、「分かる授業」が開けるよう、教科内にとどまらず教員間での研修会等の情報交換を図る。 ○自律的活動力や自己理解など、学び続けるための基盤となる「態度・価値観」を育成する。 ○連携型キャンパス制の本格的な導入にあたり、結城一高と緊密に連絡を取り合い、オンラインでの効果的な授業展開の準備を図る。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○進路希望が大学・短大・専門学校、就職と多岐にわたっているため、それぞれのニーズに合ったアドバイスが求められている。 ○進学の方の2は専門学校である。大学・短大への進学は指定校推薦が65%と半数以上を占めており、公募推薦や一般入試の合格者の割合が低い。 ○就職は地元企業を中心に、約半数が技能職、事務職は約35%、公務員（警察事務）が1名で、ほぼ希望する職種につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップや企業説明会への参加者を増やし、企業への理解を深め、就職後の離職率低下に努める。 ○「入れる学校」から「入りたい学校」へ意識の向上を図り、指定校推薦以外の入試にチャレンジさせる。
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識の高い生徒の割合が年々増えており、生徒は落ち着いた生活を送っているため、学校全体としての秩序が保たれている。 ○服装指導及び頭髪指導など、生徒指導における学年間の格差はほぼなくなってきており、学校統一の基準で組織的な指導体制が整ってきた。 ○「服装指導票」が有効に活用されはじめ、教員間にも、「いつでも誰でもどこでも指導する」という意識が広まり、その結果、主体的に身だしなみを改善しようとする生徒が増えてきている。 ○月1回実施している「学校生活アンケート」の定着やSCの活用が広まることで、生徒間トラブルやいじめ案件の早期発見につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スマホ利用に伴うトラブル等について、継続的に注意喚起を続け、SNS上の問題行動や被害を未然に防ぐ。 ○駐輪場や学校周辺の巡回指導を強化し、交通マナー、公共マナーを身につけさせ、地域から信頼される生徒を育成する。 ○多様性の時代に順応するように、必要に応じて校則の見直し等を行い、生徒ひとり一人に寄り添った支援を行う。 ○生徒事故の件数及び特別指導の件数を減らすと共に、我々職員が「いじめを出さない」から「積極的にいじめ認知する」という意識をもって、安心安全な生活環境を整えていく。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を通して生徒会役員や実行委員が主体的に活動し、生徒の意向を反映した行事運営を実現した。特に生徒総会に向けた意見集約や行事後の振り返りを通じ、生徒会活動への主体的参加を促すことができた。 ○体育的行事を2日間開催するにあたり、生徒会による事前アンケートを実施し、アンケート結果に基づいた種目選定を行うなど、生徒会及び実行委員主体の運営体制を構築できた。 ○連携型キャンパス制の導入初年度として、文化的行事での交流や部活動・地域イベントへの共同参加を通じ、結城一高との連帯感を醸成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が企画・運営の主軸となる環境を構築し、自主的・積極的に行動する力を育成する。 ○行事の目的を再検討して内容を精選し、準備期間を含めた無理のない日程を確保する。 ○施設の確実な施設に向け、部活動内でのコミュニケーションを密にし、一人ひとりの責任意識を醸成する。 ○生徒会を中心として、結城一高との交流や地域イベントへの参画を促し、社会との接点を拡大する。
教育活動充実のための業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の労働時間を把握し、定時退勤を呼び掛け勤務時間の縮減に取り組んだ。ポイントを絞った業務の取り組みで退勤時刻の早期化にも成功している。 ○保護者からの要求に対して教員が個人で対応するのではなく、学校が組織として対応することができている。 ○年間の審査回数を減少させ、授業で行う評価の比重を上げることによって授業の工夫が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に必要な資質・能力の育成をする観点を維持しながら教育内容の精選・重点化を図る。 ○業務の効率化の一層の推進のためのペーパーレス化を図る。 ○校内研修等の実施による教職員のICT活用のスキルアップを図る。

5 中期的目標

<p>1 心の教育を充実させ豊かな人間性と社会性の育成に努める</p> <p>2 商業に関する専門的知識などの学びを社会に生かそうとする態度の育成に努める</p> <p>3 魅力ある授業実践のための授業改善と授業力向上に努める</p> <p>4 生徒、教職員が安心して活動に専念できる安全な学校づくりに努める</p> <p>5 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。</p> <p>6 ICT機器活用などによる業務改善により働き方改革に努める。</p>

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 心の教育を充実させ豊かな人間性と社会性の育成に努める	<p>ホームルームや授業におけるグループ活動などとおして、自分の表現力や相手の考えを理解しようとする態度を養う。</p> <p>地域で行われる活動に目的意識をもって参加することで、自分と社会との関係、社会貢献の意義について理解する。</p> <p>校内での挨拶習慣を基盤とし、公共の場におけるマナー指導を行い、社会人としての基礎を築く。</p>
2 商業に関する専門的知識などの学びを社会に生かそうとする態度の育成に努める	<p>商業および関連する知識・技術・技能を身に付ける。</p> <p>商業の学びが進路選択に生かされるようキャリア教育を充実させる。</p> <p>各学科の特性に応じた検定試験に計画的に挑戦することで、実社会との関りについて深く理解する。</p>
3 魅力ある授業実践のための授業改善と授業力向上に努める	<p>相互授業参観や教員間での情報交換を行い、生徒の学習意識を引き出す効果的な指導法を見出す。</p> <p>タブレット端末の活用などにより家庭での学習習慣の確立を図る。</p> <p>生徒の習熟度に応じた課外学習や学習支援を行い、得意科目の学力伸長と基礎学力の習得を両立させる。</p> <p>授業評価における授業満足度で、学校平均3.5以上を目指す。</p>
4 生徒、教職員が安心して活動に専念できる安全な学校づくりに努める	<p>月1回実施している「学校生活アンケート」を継続し、人間関係のトラブルやインターネットなどの不適切利用を早期に発見し適切な対応を図る。</p> <p>教員やスクールカウンセラー等との個別面談を適切に計画するなど相談体制の充実を図る。</p> <p>施設管理や学習環境の整備を常に意識し、生徒・教職員が安全に活動できる体制を構築する。</p> <p>交通安全指導の徹底と交通違反の根絶に努める。</p>
5 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。	<p>生徒の興味・関心、得意分野を把握しミスマッチが起こらない進路指導を進めていく。</p> <p>生徒・保護者アンケートの結果を丁寧分析し、学校運営における具体的な改善策を検討する。</p> <p>郊外活動や学校ホームページを有効に活用し、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。</p>
6 ICT機器活用などによる業務改善により働き方改革に努める。	<p>常に業務目的をふまえた改善意識を心掛ける。</p> <p>教員負担が軽減できるよう、ICT機器活用能力を向上させる研修を実施する。</p> <p>勤務状況を把握し、誰もが無理なく働ける業務の配分を目指す。</p>